
サヨナラのともしび

原崎 奈里

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

サヨナラのともしび

【Nコード】

N8499X

【作者名】

原崎 奈里

【あらすじ】

現世で危篤状態の「あたし」は、
乱暴でやさしくない「天使」とともに
三途の川・白い河を旅する。
そこで走馬灯を見つけるが…？

(前書き)

r i m a g e s o n g y o u r h e a v e n
オルゴール
olve

天使、っていう単語で思い浮かぶものって？？

と、尋ねればたぶんほとんどの人が「優しい」だの「優しい」だのって答えるよね。

あたしもそう思ってた。

けど目の前に立つこいつはまったくそんなじゃなかった。

「うるせーな！！聴こえてるんだよこの野郎！！」

「天使」はあたしの髪をいつぱって大声で怒鳴る。

その声の大きさは女にもかかわらずあの有名なネコ型ロボットの飼主の大きなお友達さえ連想させる。

天使とやらはヒトの心の声が余りにも大きいと聞こえるらしい。

「あぁん？今何か言ったか？ごちゃごちゃ言うて蹴りいれるぞ！」

「はいはいはいごめんねー。」

「むつきいいいい適当な！！心がこもってない！！30点！！」

「点数いらないし。」

「暗いな。まったくしょーがねー。」

綺麗なショートヘアの髪の毛をぼりぼり乱雑に掻きむしりあたしの方に向き直り言った。

「…。」

まだ間に合うかもだぞ？本当に行くのか？」

神妙な顔で「天使」はあたしに尋ねかけるが、あたしの決心は揺るがない。

まっすぐ、「天使」の瞳の奥の自分自身を見つめて口を開く。
まるであたしに語りかけるように。

「行くよ、後悔なんかない。連れてって」

「…しょーがねー。のれよ。」

そしてあたしは、真っ白の船に乗り、天使とともに真っ白の河を渡り始めた。

…もう気づいてるかな？

あたしは、昨日死にかけた、現世では今私は危篤の状態らしい。

「天使」によれば今なら超超超頑張れば生き帰れるらしいけど、そんな事する気さらさない。

むしろこうなれたことはラッキーだ。

だって…

「おい」

「天使」の声ではっと我に帰る。

「暗い、やめろ。聞いているこっちが死にたくなるからやめろ。」

「あんたたちって死ねるの？」

「シラネ。考えたこともねーよ。でもホントに止めてくれよ。又ガ
ー入りキャンディみたいだよお前。」

「あたしあれ好きだけど。」

「…お前とは気が合わないな。」

「天使」は端正な顔をくしゃっとさせてふてくされた。

そうしておよそ15分くらいたったころだろうか。
真っ白だった河の向こうにぼんやり明かりが見えた。

「今居るのがあ、お前らの言葉で言うところの三途の川な。んであの明かりが走馬灯。」

細い指がさした向こうには色とりどりのちょうちんや、キャンドル、はたまたスタンドライトまでありとても奇妙な光景だった。

「あのさ、なんか思ってたのと違うんだけど？かつこわる。」

「勝手にイメージを作り上げたお前らが悪いよ。」

あとあれはお前の人生の象徴なんだぞ？そんなこと言っているの？」

「天使」はにこつと意地悪そうに笑い、どうだといわんばかりの目で私を見てきた。

…こいつ本当に天使なの？

ふと横を見ると、いろんな船が集結していた。

横の小さな白人のおばあさんに英語で話しかける天使はとても美しく優しそうだし、

うしろのインド人らしき男の子に話しかける天使はイケメンで聡明そうだ。

…なのにコイツは。

「おわあ、おまえの走馬灯古いなー洗練されてないツツの??珍しくていいと思うぜ!!」

などさつきからずつと私に話しかけてくる。

ため息をつき、私は彼女に話しかけた。

「んで？何するの？ここを突き抜けたら記憶が次々思い出せるとか？」

できれば、かなりそういうの遠慮したいのだが。

ろくな記憶なんてないし、振り返るものなんて特にない。見たくない。

しかし、天使はひひひっと笑い囁いた。

「…そんなしょぼいもんじゃないよ？」

八重歯をのぞかせてひひひっと笑ってまた「天使」はカラフルの光の中へ舟を漕ぎだした。

胸騒ぎがした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8499x/>

サヨナラのともしび

2011年10月23日15時06分発行